

SSKA 東腎協

1998年4月26日

No.122

東腎協第26回総会議案集



昨年の総会風景

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・☎171-0031

郵便振替口座 00150-0-128390 ☎

FAX

E-mail touzin@

東腎協第26回

総会 次第

開会あいさつ

議長団選出

会長あいさつ

〔報告事項〕

活動報告、決算報告

監査報告

〔審議事項の提案〕

活動方針案、予算案

スローガン案

総会宣言案

新役員選出

閉会のあいさつ

〔総会終了後、記念

講演〕

第26回総会のご案内

東腎協規約第六条により、左記の通り第二六回総会を東交会館において開催します。会員家族の皆さん、お誘いのうえ、ご参加下さい。

記

日時 平成10年4月26日(日) 午前9時30分開場
次第 第26回総会(午前9時45分から)

記念講演(午後1時30分～3時)

「透析生活の向上を目指して」 仮題

飯野 靖彦

(日本医科大学腎臓内科部長)

会場 東交会館(港区芝浦3-1-35)

☎ 03(3452) 6601

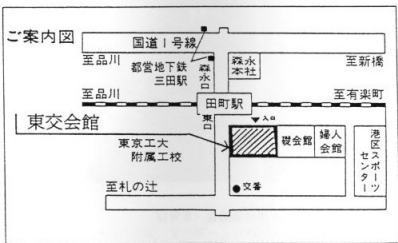
*今年度は会場が変わり、時間も早くなりますので、まちがわないようにご注意ください。

*総会は午前9時45分からはじめますので、参加者には昼食を用意します。また、参加者はこの講案集を必ずご持参下さい。

〔交通〕・JR山手線田町駅芝浦側下車徒歩3分。

・都営浅草線三田駅下車徒歩10分(案内あり・階段多し)

〔駐車場〕利用できませんので公共交通機関でおい下さい。



一九九七年度活動報告(案)

一、はじめに

経済の停滞のなかで、消費税が五パーセントに引き上げられ、私たちの懐はますますやせ細るばかりです。

誰のせいかは知りませんが、考えられない銀行の倒産などの金融不安。大蔵省をめぐる次々と明らかになる不正。私たちは持つて行くところのない苛立ちを覚える毎日です。国の財政の無策の付け回しはまた私たちに回ってくるのです。

東腎協は今年度、結成二五周年を迎えました。これまで東腎協は年々発展してきました。ただこの一年は、二五周年を祝っている雰囲気ではありませんでした。医療費の自己負担導入へ大きな波が幾重にも私たちの眼前に押し寄せてきました。

特に東京都の事業である、心身障害者医療費の助成の見直しは、住民税非課税者を除き、外来で毎月五、〇〇〇円程度の自己負担を強いる、という内容でした。これ

を撤回させることができたのは、会員一丸となって運動に取り組んだ大きな成果です。その他の災害対策にも大きな前進がありました。活動の中心となる役員も高齢化や、合併症をこらえながらの活動は年々厳しくなっていますが、今年度も次の通り、精一杯の活動を展開してきました。

二、主な活動と成果

1、全国的な活動に

ついて

(1) 医療費について

一九九五年度の国民が使った医療費は、二七兆円になるといいます。

毎年一兆円強のペースで増え、そのうちの二四パーセント、二千四百億円が国庫から支払われている

そうです。

また、年金も高齢化の進行で受給人口が増えているから国庫負担も年々増加しています。そうした社会保障関係費の自然増は、九八年度は八千億円を超えると見込まれ、政府・与党は六月の財政構造改革会議で、そのうち一五千億円を上回る削減を行う」との方針を固めました。

このような流れの中で、医療保

険制度の改定が昨年九月一日から実施されました。これにより、サラリーマン本人の支払いが一部から二割に増え、薬剤費にも一部負担金に加わりました。

政府は今後数年間で、医療保険の制度改革をさらに進める必要があるとし、八月には医療保険の抜本改革案を発表しています。

こうした国の動きに連動して東京都の財政健全化計画案に、心身障害者の医療費助成などが組上のせられました。

私たちの必死の運動で制度の維持・継続が決まりましたが、この流れは今後ますます強くなって行くことが予想されます。

(2) 臓器移植法について

私たちが強く望んでいた臓器移植法は昨年一〇月一六日に施行されました。これにより、脳死者からの臓器移植が可能となり、心臓や肺、肝臓などの移植ができるよ

うになりました。

腎移植については従来より、心臓死からの移植が行われていましたが、新法のもとでも心停止後の提供は、家族の了承でよいことになっていきます。

私たちの今後の運動としては、臓器提供に関する「意思表示カード」の普及を目指すことになり、腎臓移植は他の臓器と異なり、心臓死からの提供が可能、という点も踏まえた活動をしなければならず、具体的な行動内容を検討していく必要があります。

(3) 川野裁判について

北信観光タクシー(株)(長野県山内町)で長年タクシー運転手として働いていた川野征智さんが透折導入を理由に解雇され、その復職を求めて現在、東京高等裁判所で審議が進んでいます。二月二十五日まで、すでに六回の公判が行われました。これまでの公判で川野さん側は、透折時間の確保のために他の社員と同じ勤務時間を守れないから解雇はやむを得ないという一審の判決が、障害者雇用に関する国際準則や障害者雇用促進法に反することを訴えてきまし

た。東腎協では署名活動、ピラ撒き、公判傍聴など、この運動に積極的に取り組んできました。

(4) 国会請願運動について

今年度も東腎協は、全腎協の一腎疾患総合対策の早期確立を要望する、及びJPCの「総合的難病対策の早期確立を要望する」請願署名・募金運動に取り組みました。例年秋に行っていたこの請願署名・募金運動ですが、今回は東京都・心身障害者医療費助成への自己負担導入反対緊急署名を優先して行つたため、年明けからの取り組みとなりました。また、今年度は川野裁判支援署名や、難病への自己負担導入反対要請はがき、青島都知事への心身障害者医療費助成自己負担導入反対要請はがきなど、断続的に会員みなさんのご協力をお願いしてきました。この署名運動についても積極的なご協力をいただき三月九日現在で全腎協は、四二、〇一六人、JPCも四一、七六一人の署名を集めました。また、両署名に対する募金は二月二十八日現在で、一、一三三、五二〇円となっています。この国会請願行動は、全腎協が三月二六

日、JPCは六月一日に予定されています。巻末の表は三月二十四日現在のものです。また、第二六次全腎協国会請願行動は昨年三月二十七日に行われ北は北海道から南は沖縄まで全国から一四六人が参加し、衆参合わせて二五二人の国会議員に紹介を要請しました。また、今回は特に臓器移植法案早期成立の要望も手渡しました。この行動に東腎協から五人が参加しました。本請願は、六月八日に衆参両院で採択されました。

2、東腎協結成二五周年

記念事業について

(1) 記念講演会の開催

東腎協は一八八年にわたり、透折患者の災害対策確立を東京都などに要請してきました。

こうした要請に応え東京都衛生局は、一九九五年一月十七日に発生した阪神淡路大震災の調査結果及び「都内の透折患者及びその治療施設に関する現況調査」をもとにした報告書「災害時における透折医療の確保について」を作成しました。これを演題として、六月

一日午前中に住友ホールで東京都衛生局・東海林文夫課長に記念すべき講演をしていただくことができました。ようやく透折患者が災害弱者として、東京都の防災施策の中に位置づけられました。講演は意義深いものとなりました。

(2) 祝賀交流会

六月二日にはアルカディア市ヶ谷で二五周年記念会員交流会を開催し、一〇八人の会員が、おいしい料理を食べ、飲み物も適当に楽しみ、二〇年以上の会員を祝つたり交流を深めました。

マジックショーあり、夢競馬あり、透折の歌(浪花節だよ人生は)の替え歌)ありのパartyでした。全腎協からは小関副会長があいさつに出席されました。閉会後はみな三〇周年での再会を誓って別れました。

(3) 機関誌「東腎協」

記念号の発行

記念誌は別冊とせず、一〇月号・一二〇号として誌面体裁を表紙2色刷り、紙を白くとの要望にもとずき刷新しました。誌面が明るくなったとの評価を得ました。ま

た、会員拡大運動のフォローに役立てるため、九、〇〇部を印刷しました。活用したいものです。五人の二五年以上透析の会員にインタビューした記事も掲載し好評でした。

(4) 緊急時透析患者手帳の発行

今年度は、東京都の災害対策について大きく前進しました。東腎協では、このところ課題となっていました「緊急時透析患者手帳」の作成に取り組みました。この手帳は、血液透析だけではなく、C



東腎協第25回総会 (97.4.6)

APDの方も使える内容とし、都内の主な透析施設の所在地も掲載しました。制作数は八千冊で、会員には無料で配布し、好評を得ました。なお、この雛形が東京都作成の「災害時における透析医療活動マニュアル」にも掲載されたため、患者会組織の無い施設などからも問い合わせがあるなどの反響がありました。

(5) 会員拡大運動について

東腎協二五周年記念として、会員拡大特別運動を実施しました。

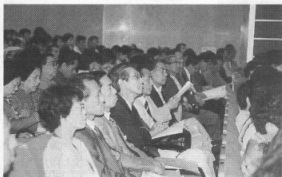


第25回総会風景 (97.4.6)

対象は、①加盟患者会の中の未加入者②個人会員のいる施設の患者会組織化による会員拡大③未加盟施設に対する勧誘などとし、した。

この運動開始に際し、二五周年記念「入会のしおり」一万部(A4版、カラー)を作成、入会案内、口座振替用紙を挟み込みセットして活動資料としました。

①については、幹事さんに院内未加入者数を申告してもらい、配布と共に個別勧誘をお願いしました。この運動に記念パンフレット三、五〇〇部を配布しました。



全腎協全国大会に参加した東腎協役員たち (97.5.18)

②と③については、未加入透析施設リストより約一六〇件を対象に運動を進めました。会員拡大委員を中心に常任幹事はよくがんばりました。しかし、役員自身に体調不良者が続出したことや、施設側の対応も一部厳しいところもあって、訪問実施率は八〇%程度になると思われます。記念パンフレット配布は約五千部以上に達しました。

こうした活動により、東腎協の会員数は、年初の六、四七四人から年度末には二一〇人増えて六、六八四人となりました。このう



25周年記念講演会。東京都衛生局・林技監 (97.6.15)

ち、新規個人会員として三五施設から五四名の入会がありました。個人会員を軸とした患者会組織は、短期間では難しく、今後の課題として取り組む必要があります。

3、東京都に対する

要請活動

(1) 予算要請活動について

毎年行われている、平成一〇年度予算に対する要請は、昨年の六月二六日に都庁会議室で実行され、東腎協からは糸賀会長ほか一三名が出席しました。

東京都側は、各課長以下各担当者が多数出席し、東腎協の要望事項にそれぞれ対応するとともに、活発な意見交換を行いました。

衛生局に対しては、腎臓病の研究、予防、治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策の確立を中心に一三項目の要望をしました。教育庁に対しては、児童・生徒の検尿による腎臓病の早期発見と学内での予防・管理の徹底と継続進展を要望しました。

福祉局には、国の医療保険改革後も、都の心身障害者医療費の助成制度維持を中心に福祉政策全般に亘る一〇項目についての要望を行いました。

労働経済局には、腎機能障害者の雇用先確保を、総務局に対しては、都自体の身障者雇用レベルアップと、災害対策を中心に要望しました。

最後に、養育院には高齢者腎センターの設置と、高齢者福祉・医療の複合施設建設には、要介護透析患者が利用できるよう要望しました。

都庁要請は、国の医療・福祉政策の後退を、東京都の制度で救済するという現状を見ても、最重要項目の一つです。今後も東腎協の組織を挙げて取り組む必要があります。

(2) 都議会に対する要請

毎年一〇月、ヒアリングの案内のあった、民主・共産・公明の三党には要望書をもって要請し、市民・社民・生活ネット・無所属クラブに対しては同じ要望書を手交しました。

また、次項マル障問題について

も、制度維持を中心に運動を展開しました。

(3) 心身障害者医療費助成制度の見直し反対運動について

都は「財政健全化計画」で、心身障害者医療費の助成制度の見直しを取り上げ、住民税非課税者以外の障害者から老人保健法なみの自己負担を求めました。

これに対し、東腎協として強力な反対運動を展開し、九月二四日の幹事会に於いて、署名運動を決議し、第一段階として「障都連」の団体署名に参加し、五六腎友会の署名を提出しました。

次に本格的取組として、一二月に会員の署名運動を行い、六万人を越す請願署名を五会派一二議員の紹介により議会に提出、受理されました。委員会審議はこれからです。

また、年末から年始にかけ都知事宛の葉書運動も実施しました。

なお、東腎協も福祉局はじめ都議会各政党に対する働きかけを継続し、都知事宛の要望書も提出しました。こうした運動の結果、一月二二日、東京都は、青島知事の

判断で、心身障害者医療費助成制度の現行制度継続を決めました。この大きな成果は、会員みなが危機感を持って団結した結果です。

(4) 災害対策について

東腎協は昭和五四年に、東京都に対し「災害時の人工透析医療の確保について」を提出以来、毎年要望を継続してきました。

今年は大きな進展を見ることができ、一九九七年六月一日、東腎協二五周年記念事業として、東京都衛生局の東海林特殊疾病対策課長の「災害時における透析医療の確保について」の講演が実施され、また一九九七年八月の一災害時における透析医療活動マニュアルの作成により、都の本問題に対する支援の必要性と課題が明示されました。

我々透析患者が災害時でも生命が維持できるよう、行政の対策を促してきた長期の運動に大きな記念となる年となりました。

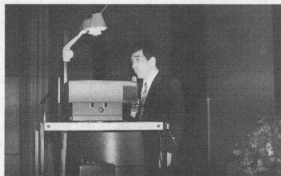
(5) 島しょ透析について

一九七八年、大島出身の患者さんの訴えより始まった島しょ透析の要請は、一九九四年の神津島、

一九九六年の大島に続いて、一九九七年五月八丈島での透析開始となり、関係者のご尽力と東腎協の長年の運動が実った年でもありました。

4、腎移植推進 キャンペーン

腎臓及び角膜移植推進キャンペーンは昨年一〇月一七日、新宿・NSビルにおいて東京都、東京都医師会、日本臓器移植ネットワークなどとの共催で開かれました。今回は前日の一六日に臓器移植法



25周年記念講演会。東京都衛生局疾病対策課・東海林課長

が施行され、注目される行事でしたが、東京都予算の大幅カットのため、従来の二カ所方式から、一カ所の開催と縮小されてしまいました。また、キャンペーン内容も会員が参加し難い平日の実施に象徴されるように、東腎協運動としては、達成感の少ない活動となりました。また、多摩地域でのキャンペーンに代わるものとして一〇月一日(土)から二日(日)の二日間、都立小金井公園で開催された、「ふるさと東京まつり」の中に衛生局・特殊疾病対策課のコナーとしてテント一



25周年記念講演会。会場風景 (97.6.15)

張りが設営され、「意思表示カード」などの配布が行われました。このように今年度の東京都の財政状況もあって、私たちの運動としては残念ながら満足できるものではありませんでした。来年度は、臓器移植法の制定を受け、東腎協独自の運動も含め腎移植推進運動を再検討する必要があります。

5、腎臓病を考える 都民の集いについて

「腎臓病を考える都民の集い」は昨年六月二日、二五周年記念

講演会の後、同じ住友ホールで東京都、東京都医師会、日本腎臓移植ネットワークとの共催で開催しました。

東腎協は一九九三年、年々増加する糖尿病性腎症からの透析導入への警鐘の意味で「糖尿病からの腎不全」と題する講演に取り組みました。

今回は更に潜在患者六〇〇万人ともいわれる糖尿病の恐ろしさをご理解いただくために「糖尿病の腎臓病」と題して、東海大学教授の堺秀人先生に講演していただきました。



東腎協・腎臓病を考える都民の集い (97.6.15)



東腎協・25周年記念パーティ (97.6.22)

高度な先端医療の成果をかみ砕いてわかりやすく話され、参加者も熱心に傾聴していました。今後の腎不全対策の推進に多大な影響を与えたものと思われました。

また、体験発表では俳優の小松方正さんの医療・行政に対する厳しい発言が参加者の共感を呼びました。

6、雇用促進運動について

障害者の雇用状況は毎年六月、労働省において取りまとめられています。今回は一九九七年六月一日現在の雇用状況が発表されています。

それによると、一・六パーセントの雇用率が適用される一般民間企業の場合、前年と同様で一・四七パーセントで依然として障害者にとって就職のめちは厳しい状況が続いています。

規模別では相変わらず企業規模の大きいところで低く、小さいところで高いという傾向は変わらず、障害者の雇用について大企業の取り組みが今一つ熱意に欠けるものと思われれます。

現在公判中の川野裁判に見られるように、透析患者の場合は、透析時間を確保するため、多少の早退が必要です。同時に透析治療が高額なために、健康保険組合から歓迎されない、という二点が問題となつています。

私たちは機会ある毎に透析患者の立場を訴え、理解を得ていくことが必要です。また、川野裁判に勝利することも環境改善に弾みを付けることにつながります。

なお、この法定雇用率は、知的障害者や精神障害者の雇用促進強化という面から一九九八年七月から一・八パーセントにアップされています。

7、ブロッック活動について

東腎協は今年度も都内を五つのブロッックに分け、それぞれに応じた活動を進めてきました。

区中央部は、昨年七月二〇日、後楽園近くの文京シビックセンターで、「透析患者をめぐる福祉制度」をメインテーマに学習交流会を開きました。

お招きした望星田無クリニク

のソーシャルワーカー・金井美香さんの、実践に基づくお話は、とても参考になりました。参加者は二六人でした。

また、一〇月二六日には、「はとバス東京探検大江戸町情緒コース」を実施、三三人が参加しました。当日は浅草仲見世を散策、演芸ホールやおいらん道中、昼食には下町味覚・駒形どぜうで今は珍しきどじょうをいただき、下町情緒を満喫しました。

区南部は六月二九日、お台場ベイエリア・ウォーキングを実施し、三〇人が参加しました。ちょうど梅雨時なので雨天を予想していましたが、当日は台風一過、よく晴れ渡りウォーキングには最適な日になりました。臨海副都市の新しい建物、風景を楽しみながら船の科学館を目標に散策しました。

二月二一日には「蒲田温泉で湯ったりトーク」を実施しました。当日は、二三人の会員の参加を得ましたが、交流会を大広間で行った関係で、カラオケの騒音の中で話し合いになってしまいました。反省点もありましたが、暮れのおわただしい中、ゆっくりと

くつろぎの一日を過ごすことができました。

区東部は、昨年八月一〇日、「ゆりかもめに乗って海の香りを満喫しよう」と題するレクレーションを実施しました。「水の科学館」、「船の科学館」を見学するため、灼熱の石畳の上を三二人が皆、歩きました。

下期は堀ブロッック長の入院などがあり、遅くなりましたが一月二五日、文京シビックセンター五階研修室Aで、二六人の会員が参加し、東京都の医療制度について糸賀会長から、全腎協の活動について、高橋副会長（全腎協広報部長）から講演を受けました。

ちょうど心身障害者の医療費助成制度に自己負担は導入しない、と青島都知事が言明した直後で、新聞コピーなどをもとに、勉強しました。運動の成果でもあり、今後の見守りが必要ということを確認しました。

区北部は、昨年九月二八日、板橋区立産文ホールで、区中央部と同じ「透析患者をめぐる福祉制度」をメインテーマに学習交流会を開きました。講師も金井さんにお願いました。



25周年記念パーティ。20年以上の会員 (97.6.22)



東腎協・東部ブロック交流会。船の科学館 (97.8.10)



東腎協第39回幹事会 (97.9.14)



東腎協学習交流会 (97.9.14)

質疑応答では、要介護透析患者の透析施設への送迎問題、障害年金問題などから災害対策まで、日ごろの疑問点についての質問がたくさん出され、金井さんからは的確な回答がありました。参加者は三六人でした。

多摩部は、昨年七月二七日、盛夏の中、手根管症候群の内視鏡手術で高名な日赤医療センターの奥津先生をお招きし、学習交流会を開催しました。広い会場が見つからず、一〇〇人が定員の国分寺勤労福祉会館での実施となり役員一同心配していましたが、定員を大

幅に上回る二二八人が参加する盛況ぶりでした。

一〇月二六日、「欲張り日帰り旅行」を実施、会員・家族五〇人が参加しました。はとバスの大型デラックススーパークルーザーで、河口湖から石和温泉「かげつ」で温泉を浴び一休みした後、勝沼でのおどろ狩りを楽しみました。帰りは予想通り大渋滞に巻き込まれ、立川帰着が七時半となっていました。参加者の皆さんが、よかった、面白かったと言っ

て下さったのがなによりでした。東腎協も七千人近い会員数とな

り、組織が大きくなったことや、地域活動の強化という観点から各腎友会の協力を得て、ブロック活動のあり方を研究し、学習会や、交流会だけではなく、さらに活動を広げて行くことが必要です。

8、学習交流会に

ついて

今年度の学習交流会は九月一日、第三九回幹事会終了後、中野サンプラザにおいて行われ幹事、常任幹事など九〇人が参加しました。

テーマは、「高齢化社会を考える」―安心な老後、とまどうらい―という極めて今日的命題で、講師は特別養護老人ホーム職員も経験した安田陸男氏にお願いしました。安田氏は、毎日新聞生活家庭部編集委員(老人問題担当)を定年退職後、実生活でも四年間母を介護した経験をもち、現在、毎日新聞に「老いと暮らす」を連載中です。

四年間、母の介護をしながらの主夫体験から、はけ始めは財布が硬貨ばかりになる、それはレジで並んでいる時に気が急ぎ、お札ば

かり出してしまふからだとの哀しい話。怒鳴られそうな気配を背後に感じながら自動販売機の切符を買おうのにオタオタしてしまう老いの哀しみを、若い人は理解しない。一方スウェーデンでは、黙っていても老人に語りかけ、手を差し伸べる環境が定着しているとのこと。困難だが、国や自治体の体制や政策を変えさせるチャレンジが必要で、それは取りも直さず自分に対するチャレンジに他ならない、との意義ある示唆がありました。

9、委員会活動に

ついて

東腎協は多様な活動に対応するため、任務分担として委員会制をとって活動しています。

今年度も昨年度と同様に六つの委員会と渉外担当を置いて活動を進められました。

編集委員会は年四回の機関誌「東腎協」の定期発行と、号外として「腎臓病を考える都民の集い」、それに第二回総会の議案集の六冊の編集・発行を予定通り達成しました。また、今年度第一

二〇号より、表紙の二色刷りや、紙面を刷新し、より読みやすい機関誌づくりに努力してきました。

教宣委員会では、総会で決められた活動方針に基づき、この一年間の具体的な活動の企画立案を行ってきました。また、緊急課題となつていふ事務所移転問題についても、事務局財政検討委員会と協力して、検討を進めてきました。

会員拡大・交流委員会は、結成二五周年記念の会員交流パーティーの企画・実施や、今年度の特別行動である会員拡大運動の企画・運動実施の主体となつて活躍してきました。

災害対策委員会は、懸案となつていました「緊急時透析患者手帳」を作成し、皆さんのお手元にお届けしました。また、関東ブロック災害対策推進委員会や新宿の東京都心身障害者福祉センター内に設置された「障害者震災対策検討委員会」に東腎協を代表して出席してきました。

事務局財政検討委員会は、教宣委員会とともに事務所移転問題について討議してきました。また、地域福祉委員会は、地域腎友会の交流会を計画していましたが、担

当役員の長期入院などもあつて実施できませんでした。

渉外担当は、主として次年度の予算要請や心身障害者医療費の見直しに対する反対署名運動を中心に都庁や都議会などへの働きかけを行ってきました。

10、青年部の活動に

ついて

全腎協青年交流会が昨年八月三〇日から三一日に富山県立山町で開催され、東腎協からは二名が参加しました。

一日目は、全体会議とグループ討論と懇親パーティーでした。グループ討論では、それぞれの班の様子はまったくわからず、とにかく話し合つて終わるといった感じでした。

二日目の観光は、霊峰立山の室堂に行きすがしがいい気分になりました。各地方でも患者会活動に対する無理解があつて、同じ悩みを抱えていることが分かり、このような試みは続けていって互いに情報交換しながら運動を続けて行かねばならないと感じました。

十一月一日、二日の両日は、長

野県の湯田中温泉で「関東ブロック青年交流会」が開催され、東腎協青年部から五人が参加しました。

初日は、グループ討論で「関東ブロック青年交流会」そのものの継続の可否を考えるもので、「交流会」の意義や成果、費用対効果等多岐に渡る論議が交わされ、継続する方向が大勢を占めました。

東腎協青年部としても、過去の経緯からすると運動の「核」のようなものでありますので、今後も継続を前提に対処、改善に努力したいと考えます。二日目は、長野オリンピックのスピードスケートの会場の見学を行いました。

十一月九日は、東腎協の青年部交流会を開催しました。交流会は、昨年の関東ブロック青年交流会に引続きたくさんの方々に参加していただき、各地方でも患者会活動が盛んになり、各地方でも患者会活動に対する無理解があつて、同じ悩みを抱えていることが分かり、このような試みは続けていって互いに情報交換しながら運動を続けて行かねばならないと感じました。

参加者は約五十名で、新しい方



厚生省から感謝状受賞式。盛岡 (97.10.12)



腎臓角膜移植推進キャンペーン。新宿NSビル(97.10.17)



腎臓角膜移植推進キャンペーン。新宿NSビル(97.10.17)



東腎協・都議会講演 (97.11.27)

も参加してくれたたり、旧友と再会したグループもあったようで、楽しいひとときを提供できたものと思います。

形はどうあれ、「交流会」は今後も毎年開催していきたいと思っています。

11、機関誌「東腎協」の発行

今年度も無事に定期発行を果たすことができました。三月の一七号の総会議案集は表紙を写真にしてページ数を増やし、中身も写

真を多くして読みやすさを増すように努力しました。

四月の一八号は「ちよつとチエック医療情報」の特別記事として「小さな家族がやってきた」(透析女性の出産記録)を会員の体験をもとに掲載し、大きな反響を呼びました。

一一九号は東京医科歯科大学教授の丸茂文昭先生による二五回総会記念講演、「人工透析の生い立ちとこれから」掲載し、他県からの転載を依頼されたほど、好評でした。

一二〇号は東腎協二五周年記念

号として、すでに報告したように二色刷り表紙の誌面刷新したものを作成することができました。そして、この一月に発行した二二二号は緑の色が新春を表し、座談会のテーマも好評でした。

また、年々増加する糖尿病からの腎臓病に的を絞った「腎臓病を考える都民の集い」報告集も年内に発行することができました。

機関誌は会員の声を集めて、会員に発信する重要な役割を担っています。ますます困難を深める情勢の中で、確実な歩みを進めなければなりません。

12、全腎協活動への参加

東腎協は地理的な条件や、歴史的な経緯から、全腎協活動に積極的に関わってきました。今年度も一ノ清副会長、高橋副会長、金子常任幹事が理事として、それぞれの立場から活動してきました。

全腎協は、一九九六年九月に社団法人となり昨年五月一八日、初めて全国大会を兵庫県の神戸ポートピアホールで開催しました。この大会に全国から一、九〇〇人

が参加しました。

開会セレモニーの後、小関副会長から、国民・患者本位の医療を、尊厳をもって生かされる介護システムを、すべての地域に良質の透析医療を、患者と市民の輪を大きく強め広げよう、との基調報告がありました。午後からは、九つのテーマ別の分科会・体験学習会が行われました。

関東ブロック会議は今年度も二回開かれました。第一回目（通算四一回）は昨年七月五日から六日にかけて山梨県河口湖で開かれました。主な議題は、医療保険の「改定」に関わる都県単独事業について、臓器移植法成立後の腎移植推進運動について、通院介護システムの確立について、青年交流会のあり方についてなどでした。

第二回目（通算四二回）は二月六日から七日、五反田の「ゆうほうと」で開催しました。議題は前回から引き続き、都県単独事業、腎移植推進運動、青年交流会のあり方のほか、震災時の広域透析支援システムの策定、県腎友会の特色を出す会活動についてなどでした。二日目は、日本臓器移植ネットワークのコーディネーター

・座間幸子氏に「腎移植について」を講演していただきました。

その他関東ブロックでは、一九九六年二月の第四〇回関東ブロック会議で、神奈川県より提起された「災害時広域ネットワーク」について検討をすすめるため、関東ブロック災害対策推進委員会の設置を決めました。

一九九七年三月に第一回目の会議を開いてから、九七年六月、九七年八月、一二月と四回の会議を開いてきました。それぞれの都県で大きな災害があったときお互いに助け合おう、という主旨です。

今年度の成果としては、各県役員名簿の交換、災害時の臨時透析受け入れ人数調査、緊急時携帯電話の所持などを行いました。東海地区のように災害の発生が予想される県や過去大きな災害が無かった県など、それぞれの状況は違いますが、お互いが学び合い一定の成果をあげることができました。

13、事務局体制の強化と財政対策

この課題は、発展する東腎協に

とっては、常に考えていかなければならない問題です。

東腎協事務局は現在、三人の専従および半専従の職員と、四人の役員が交代で勤務しています。専従・半専従三人体制は実質一〇年前とかわっていません。その間会員数は倍近くに躍進しています。それに伴って、活動が多様化し、また、事務量が激増しています。

ワープロ・コンピュータなどOA機器の導入を積極的に進め対処してきましたが、事務量は限界に来ています。

また、事務所のスペースについてもOA機器や会報発送用の作業台などでスペースの半分を取られています。役員や来客の座るところもなく、血圧が下がるなどで気分が悪くなっても、ちよつと横になるところもない状態です。

また、エレベーターが無いので発送のための会報の上げ下ろしは、非常に体力がいるので誰でもできるというわけには行きません。東腎協の事務所は、全腎協の一部を区切って間借りをしています。洗面所も別室の全腎協へ借りに行かなければなりません。これまでなんとか皆で努力して

きましたが、このように人的にもスペース的にもまた仕事を環境からも限界に来ており、事務所の移転を図ることが必要となってきました。

財政的には事務所移転、今後の人的な強化をするためには会費の値上げはどうしても避けられないことです。会員みなさんのご理解とご協力を得ながら早急に解決していかなければなりません。

14、他団体との連携

東腎協の関係団体としては、難病一四団体で組織する東京難病団体連絡協議会があります。東京都に対する要請活動のほか、東京都の委託事業である難病の医療相談を行っています。

東難連は各団体から推薦された二三人の運営委員が執行に当たっています。東腎協からは北爪副会長と納島常任幹事が運営委員として活躍しています。

今年度の難病検診事業のうち、東腎協担当の「腎臓病無料医療相談会」は昨年一月一六日に行われました。このところ受診者が減る傾向の腎臓病ですが、今年度は

六人と減派してしまいました。
東難連の委託事業費も東京都の財政難でこのところ減額されています。このような中で腎臓病の相談会は存続が問題となっています。

三、おわりに

また、今年度は心身障害者医療費助成の存続を求め、「障害者の生活も権利を守る都民連絡会」と共同して団体署名活動にも取り組みました。

されます。

一方東腎協の各腎友会の状況を見ると、会員数は増えてはいるものの、長年中心となって会の運営を担ってきた人の体調が悪化し、

会そのものが維持できなくなる、というケースが増えています。
また、東腎協の常任幹事も高齢化や、合併症で十分な活動ができる人が少なくなってきています。

病院腎友会、東腎協などの役員のなら手が少ない、ということは東腎協の今後の活動にブレイキがかかる、ということ。一〇年後の東腎協を考えると、背筋の寒くなる思いでいっぱいになります。

どうか透析をしながらでも元気、時間もとれる、という方の積極的な参加をお願いします。患者



東腎協青年部交流会。麹町麦酒館 (97.11.9)



東腎協青年部交流会。麹町麦酒館 (97.11.9)



全腎協第42回関東ブロック (97.12.6~7)



東腎協・東部ブロック交流勉強会 (98.1.25)

会活動は、誰のためでもなく、自分自身を守るためなのですから。

1997年度決算報告書

自1997.3.1～至1998.2.28

（単位：円）

科 目	1997年度予算	構成比	累 計	執行率	備 考
収入の部					
会費	25,880,000	88.9%	27,661,640	102.9%	上期6,474人、下期6,684人
寄付金	500,000	1.6%	978,920	195.8%	榎原様、佐藤様、扶桑薬品、小協様他
雑収入	840,000	2.7%	1,600,303	190.5%	ゾフ、ケルツン商会、近畿日本、大塚製薬他
小計	28,220,000	91.2%	30,240,863	107.2%	
前期繰越	2,723,524	8.8%	2,723,524	100.0%	
合計	30,943,524	100%	32,964,387	106.5%	
支出の部					
会議費小計	2,240,000	7.2%	2,319,743	103.6%	議案集印刷代、会場費、弁当代、講師謝礼
総会費					
役員会費	850,000		915,704	107.7%	常任幹事会、幹事会交通費、会場費
全腎協関係費	450,000		553,198	122.9%	大会参加費、関東5会議、青年交流会
その他会議費	690,000		639,791	93.6%	各委員会費
その他会議費小計	250,000		191,050	76.4%	学習交流会、各ゾフツク交流会費
印刷費小計	660,000	2.1%	456,941	69.2%	
印刷費	3,099,000	10.0%	3,194,653	103.1%	会報編集・印刷代、編集委員会、取財費他
その他印刷費小計					
役員行動費小計	1,400,000	4.5%	800,000	57.1%	コピー機チャージ料、印刷用紙、封筒、年賀状他
事務局費小計	3,983,524	12.9%	942,160	23.7%	
事務局費	1,440,000		1,440,000	100.0%	事務所賃料12ヶ月
通信費	1,803,524		1,807,794	100.3%	「ゼンジン」きょう、東腎協/送費、電話代、切手代他
備品費	520,000		518,062	99.6%	印刷機リース代、カメラ、PCパーツ
事務用品費	140,000		132,582	94.7%	事務用消耗品
新聞図書費	80,000		142,801	178.5%	都政新報、「福祉のしおり」、社会保険の手続き他
人件費小計	7,850,000	25.4%	7,941,720	101.7%	
給料	6,165,000		6,165,000	100.0%	専従役員、事務局員給料
退職積立金	411,000		411,000	100.0%	専従役員、事務局員
アルバイト料	884,000		1,016,340	115.0%	会報発送、会計
通勤交通費	390,000		349,380	89.6%	専従役員、事務局員
諸会費小計	11,541,750	37.3%	11,863,950	102.8%	
全腎協	11,520,000		11,842,200	102.8%	上期6,474人、下期6,684人
東経連	10,000		10,000	100.0%	
身定協	11,750		11,750	100.0%	
合計小計	169,250	0.5%	110,878	65.5%	声の会報チラシ代、ゴミ処理券、火災保険他
雑費	30,943,524	100%	30,871,284	99.8%	
手数料	0		0		
総合計	30,943,524	100%	30,871,284	99.8%	
欠期・繰越			2,093,103		

1997年度特別会計決算書

自1997年3月1日～至1998年2月28日

単位:円

	項目	金額	内訳	備考
収入の部	前期繰越	13,664,591		
	JPC健保改悪、介護保険法案反対募金	2,344,241		
	全腎協・JPC国会請願署名・募金	2,133,520		注)
	緊急時透析患者手帳頒布代	95,000		
	一般会計からの返戻金	200,000		パソコン購入費
	合計	18,437,352		
支出の部	1. 結成25周年記念事業	1,887,095		
	総会記念紅白まんじゅう		150,000	150円×300個
	会員交流パーティ補助		63,653	
	会員拡大用パンフレット印刷代		684,580	10,000部、振替用紙、謝礼
	緊急時透析患者手帳印刷代		588,000	70円×8,000部
	緊急時透析患者手帳発送代		183,092	
	記念講演会弁当代		154,350	840円×175食
	会場吊看板代		63,420	
	2. 腎臓病を考える都民の集い費	792,296		
	「報告集」印刷費		491,190	7,300部
	「報告集」発送費		91,520	
	「報告集」編集費		73,540	
	当日役員・ボランティア交通費		19,460	28人
	講師・司会者謝礼		75,000	30,000円×2人、15,000円
	相談医謝礼		30,000	15,000円×2人
	雑費		11,586	フィルム、現像代、ゴミ袋
	3. 腎臓移植推進キャンペーン費	101,980		
	参加役員交通費		36,040	
	看護婦、ボランティア昼食代		8,520	
	医師・看護婦謝礼		50,000	医師1人、看護婦2人
	雑費		7,420	
	4. マル障見直し反対 都議会請願	332,340		
	請願用紙印刷代		252,315	13,500枚
請願用紙発送費		80,025		
5. JPC健保改悪、介保法案反対	1,199,610			
署名用紙発送費		28,990		
全腎協への納入分		1,170,620		
6. 全腎協・JPC請願署名通信費	107,980			
合計	4,421,301			
	次期繰越	14,016,051		

注) 例年、年末に実施していましたが、本年度は心身障害者見直し反対署名を優先して実施した関係で、1998年に入ってから取り組みとなりました。従って、入金が1998年度にまたがっています。この金額は1998年2月末までの入金分です。当然、全腎協への上納はしていません。

貸借対照表

1998.2.28

借 方		貸 方	
科 目 名	金 額	科 目 名	金 額
現金	128,888	一般会計剰余金	2,093,103
郵便振替	855,396	特別会計剰余金	14,016,051
普通預金(富士銀行)	4,614,688	前受金	52,500
(特) 同 上	62,682	退職給与積立金	2,923,000
定期預金(富士銀行)	10,500,000		
定額貯金(目白郵便局)	2,923,000		
合 計	19,084,654	合 計	19,084,654

現預金残高明細書

1998.2.28

項 目	金 額	備 考
現金	128,888	手持ち有高
普通預金	4,614,688	富士銀行目白支店 No.527157
(特) 同 上	62,682	同 上 No.536016
定期預金	10,500,000	富士銀行目白支店 No.527157
定額貯金	2,923,000	目白郵便局
郵便振替	855,396	00150-0-128390
合 計	19,084,654	


1997年度会計監査報告書


私たち監査は、東京都腎臓病患者連絡協議会の1997年度の決算報告書、すなわち現金、銀行預金、元帳、現金出納帳等について監査し、その結果、すべての経理処理手続きは公正、妥当と認められました。

1998年3月12日

会計監査

同

稲葉 年 男 

鈴木 真 

備 品 一 覧

1998.2.28 現在

購入日	品 名	金 額	備 考
1977.10.26	レタースケール (6 kg)	5,600	
1978.5.16	事務机 SD-S65-3P 1台	15,000	
1978.5.16	事務椅子 CR25 1脚	8,000	
1981.7.17	折畳み椅子 FC318N 4脚	21,500	
1981.2.25	作業用テーブル FT-640 2台	58,800	
1981.2.25	耐火金庫 D-26	50,600	
1986.2.27	冷蔵庫 SJ8085G、書庫 S-2335	30,000	田沼事務所より下取り
1986.2.28	掃除機 TC-A90	24,400	
1986.4.11	ワープロ RICOH RIPOPT4600		5年リース解消
1986.5.12	事務椅子 KC170N 1脚	7,000	
1986.11.28	ホワイトボード	20,000	
1989.1.9	ファクス KONICAFAX110		寄贈品
1989.2.27	ワープロ RICOH RIPOPT5300		5年リース解消
1991.2.18	作業用テーブル FT-640 2台	80,000	
1993.5.25	コピー機 リコーFT4525	412,000	
1993.8.31	コクヨ書棚 2本	9,270	
1994.6.7	印刷機 VT2620	976,440	5年リース中
1994.9.30	ワープロ リコーNT-380	118,000	
1994.12.26	紙折り機 LF-300	92,700	
1995.2.28	シュレッダー リコー2211PT	103,000	
1995.5.8	ノート PC DynaBookSS450	329,600	
1995.5.31	手提金庫	10,400	
1995.6.2	ワープロ リコーNV-710	154,800	
1995.11.29	プリンターCANON LBP730	175,100	
1996.2.28	電動ホチキス	27,000	
1996.4.24	パソコン IBM Aptiva	366,680	
1996.4.30	事務椅子 4脚	85,000	
1996.7.8	卓上型梱包機	290,000	
1997.2.28	事務椅子 1脚	23,800	
1997.4.3	パソコン IBM PC340 NEC スキャナー NEC プリンター PICTY200		日本障害者リハビリテーション協会より貸与
1997.4.15	カメラ MINOLTA カピオス	19,800	

他に全腎協から寄贈された書棚2台、ロッカー1台、書庫2台、事務椅子1脚があります。

一九九八年度活動方針(案)

東腎協は昨年度結成二五周年を迎え、これまでの活動を振り返り、そしてこれからの活動を考えるという節目の年でした。

しかし、現実には厳しい透析環境を迎え、活動に迫られる日々です。特に、透析医療については自己負担が導入されるかどうかという瀬戸際に立たされました。幸いにも私たちの必死の運動で、今回は自己負担導入を回避することができましたが、今後も医療・福祉をめぐる受益者負担はいつそう推し進められてくることが予想されます。

こうした状況に対して、東腎協はより強い組織を作っていくかなければなりません。

昨年度、役員のみならず、あるいは役員の合併症などによる重症化や高齢化などのために、いくつかの病院腎友会が会活動停止に追い込まれてしまいました。

このようなことが続発すれば東腎協活動は弱体化してしまいます。

す。他の疾病から見れば随分と恵まれているといわれる透析環境は、活発な患者会活動があったから、ということとは関係者の誰もが認めることなのです。

東腎協の組織を維持し、活発な活動をしていくために、いつそうの努力をしなければなりません。

そのために事務局体制を強化します。一人の役員が倒れば東腎協の活動が弱まってしまう、というのでは組織活動とはとてもいえません。東腎協は当事者団体なので、役員も皆透析患者です。組織

的に行うには役割を分担していくしかありません。機能的にも面的にも、環境的にも既に限界を超えている事務所を移転拡大していくことは、今後の東腎協活動においてもっとも重要なことです。また、病院腎友会活動を活発化するためにもブロック活動を強化して、より身近な東腎協にしていかなければなりません。

こうした考えに基づき、事務所移転と一九九九年度からの会費値上げを含む、一九九八年度の活動方針を次の通り提案いたします。

活動目標

- 1、腎臓病の研究・予防・治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策を確立するため、運動をすすめます。
- 2、臓器移植法の施行を受け、意思表示カードの普及など腎移植推進のための運動をすすめます。

- 6、要介護透析患者や合併症を持った透析患者の対策についての運動をすすめます。
- 7、地震など災害時の緊急透析治療体制づくりについての運動をすすめます。

- 3、医療、福祉の全国的な問題に関しては、全腎協とともに運動をすすめます。
- 4、腎臓病の知識普及に努めます。
- 5、腎臓病を考える都民の集いは今年度限り、日本腎臓学会との共催で開催します。また、

- 8、糖尿病からの透析患者対策についての運動をすすめます。
- 9、東難連や要望が一致する他の団体と連携、協力して医療と福祉のための運動をすすめます。
- 10、ブロック活動を活発にし、会員相互の交流を深めます。
- 11、福祉制度の改革に伴い地域活動への対応について研究します。
- 12、交流会の開催など、青年部の活動を強化します。
- 13、会員拡大を図り、次の総会までに七、〇〇〇人を目標とします。
- 14、各腎友会の組織強化を図ります。
- 15、幹事・常任幹事を対象とした学習会を開きます。
- 16、機関誌「東腎協」の定期発行に努めます。さらに、速やかな情報伝達のために「とうじんきょうニュース」を必要に応じて

発行します。

17、要請事項実現のため、都庁要請、都議会要請を行います。

18、東腎協活動の強化とそれに伴う事務の効率化のため、次の目標を実現します。

①会員増や活動の多様化に伴う事務処理に対応するため、一

九九八年度の早い時期に事務

所を移転します。

②①項の目標を達成するとともに

に、医療費問題など、今後ますます厳しさを増すであろう情勢に対応するため、一九九〇年度から会費を五、四〇〇円とします。

東京都及び都議会各党に対する

陳情、要請活動

I、医療体制の整備に

関する要請

1、腎臓病の研究・予防・治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策を確立すること。

2、腎移植普及のため、広報活動の強化など腎臓提供者確保体制を確立すること。

3、すべての都立病院に腎外来を設置し、外来透析及び夜間透析を実施・拡充すること。

4、大久保病院については、夜間透析を拡充するとともに、成人の腎移植を早急に実施するこ

と。

5、都立豊島病院の改築に当たっては、糖尿病からの透析治療を含む腎不全センターを設置すること。

6、看護婦や臨床工学技士などの医療スタッフを確保すること。

7、老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置すること。

8、多摩南部地域病院における透析治療は、導入透析や合併症に対応できる地域透析センターとして整備すること。

9、鳥しよにおける透析は、看護

婦・臨床工学技士などの医療スタッフの確保を図るとともに、逐次拡充すること。

10、乳幼児、児童、生徒、学生、勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し管理体制を確立すること。

11、小・中学生については、検尿による尿蛋白・血尿の有見者に対する管理体制を徹底すること。

12、糖尿病性腎症の透析患者を増やさないため、糖尿病性腎症の知識普及や予防・管理体制を推進すること。

13、透析施設間ネットワーク化や通院の確保など、地震などの災害時における緊急透析治療体制を早急に確保すること。

II、医療費、生活保障に

関する要請

1、慢性腎炎患者の医療費を公費負担すること。

2、内部障害者は、4級まで医療費を公費負担すること。

3、医療保険改革が行われた場合でも、心身障害者医療費助成制度や東京都医療費助成制度を適用して、新たな自己負担が生じ

ないようにすること。

4、心身障害者福祉手当を増額し、所得制限を引き上げること。

5、児童扶養手当の認定基準に見られるような、内部障害と他の障害との差別を是正すること。

6、障害者の旅客運賃割引制度の距離制限を廃止し、特急料金も割引対象とするよう国等へ働きかけること。

7、障害者、難病患者に対し、民営バスの無料乗車券を発行すること。

8、在宅の要介護透析患者が利用できる福祉対策を充実すること。

9、第2障害者福祉会館の建設または既存の東京都施設内に、障害者向け会議室などを設置すること。

10、東京都の職員に人工透析をしている障害者を採用すること。

11、腎機能障害者の雇用を促進すること。

12、「福祉のまちづくり」実施のため、その予算確保に最大限努力すること。

1998年度予算案
自1998.3.1～至1999.2.28

単位:円
備考

科目	1997年度予算	1998年度予算案	97年対比	
収入の部				
会費	26,880,000	28,140,000	104.7%	6,700人×4,200円(97年度期末会員数6,684人)
寄付金	500,000	500,000	100.0%	
雑収入	840,000	840,000	100.0%	
小計	28,220,000	29,480,000	104.5%	
前期繰越	2,723,524	2,093,103	76.9%	
特別会計から繰入	0	3,450,647		
合計	30,943,524	35,023,750	113.2%	
支出の部				
会費小計	2,240,000	2,490,000	111.2%	
総会費	850,000	1,000,000	117.6%	会場費、議案書、弁当代、講師謝礼、看板代他
役員会費	450,000	550,000	122.2%	幹事会・常任幹事会交通費、会場費
全労連関係費	690,000	690,000	100.0%	総会20万円、関フ口青年20万円、関フ口東京12万円他
その他会議費	250,000	250,000	100.0%	各委員会費
交流会費小計	660,000	990,000	150.0%	7,07100円/1人、会員10万、学習12万、青年10万
印刷費小計	3,099,000	3,600,000	116.2%	
印刷費	2,299,000	2,800,000	121.8%	印刷代(色刷り)、編集会議、取材料費
その他印刷費	800,000	800,000	100.0%	印刷代、印刷材料費、封筒、名刺、年費状
役員行動費小計	1,400,000	1,000,000	71.4%	交通費、日当など
事務局管理費	3,983,524	6,350,000	159.4%	
事務局費小計	1,440,000	3,240,000	225.0%	事務所賃貸料(30万円/月×10ヶ月)+12万円×2ヶ月
光熱費	1,803,524	500,000	27.7%	電気、水道 5万円×10ヶ月
通信費	520,000	1,850,000	355.8%	機内送費、切手、はがき、電話料金
備品費	140,000	520,000	371.4%	印刷機リナー料金、パソコン特別会計返却分
事務用品費	80,000	100,000	125.0%	事務用消耗品
新聞図書費		100,000	100.0%	郵政新報、社会保険の手引き他
人件費小計	7,850,000	8,342,000	106.3%	
給料	6,165,000	6,480,000	105.1%	(228,000+116,000+88,000)×13ヶ月 5KIP
退職積立金	411,000	432,000	105.1%	事務局長、事務局次長、事務局員
アルバイト料	884,000	1,040,000	117.6%	延べ200日分 日当4,500円+交通費(700円)
通勤交通費	390,000	390,000	100.0%	事務局3人分
諸会費小計	11,541,750	12,081,750	104.7%	
全労連	11,520,000	12,080,000	104.7%	6,700人×1,800円
東連	10,000	10,000	100.0%	
身代	11,750	11,750	100.0%	
雑費小計	169,250	170,000	100.4%	
合計	30,943,524	35,023,750	113.2%	
子備費	0	0		
總合計	30,943,524	35,023,750	113.2%	

1998年度特別会計予算案

自1998年3月1日～至1999年2月28日

単位:円

	項 目	金 額	内 訳	備 考
収入の部	前期繰越	14,016,051		
	全腎協・JPC国会請願署名・募金	1,500,000		
	一般会計からの返戻金	200,000		パソコン購入費
	合計	15,716,051		
支出の部	1. 腎臓病を考える都民の集い費	790,000		
	「報告集」印刷費		550,000	
	「報告集」発送費		100,000	
	当日役員交通費、昼食代		50,000	
	講師・相談医謝礼		60,000	3万円×2人
	雑費		30,000	
	2. 腎臓移植推進キャンペーン費	300,000		
	交通費補助		100,000	500円×200人
	昼食代		40,000	
	医師・看護婦謝礼		140,000	医師2人、看護婦8人
	雑費		20,000	
	3. 全腎協・JPC国会請願上納金	1,300,000		
	4. 会員証	200,000		2,000枚
	5. 緊急時透析患者手帳	150,000		2,000部
	6. 事務所移転費	1,738,800		
	引越し代		400,000	
	電気、電話、看板等工事代		300,000	
敷金1ヶ月		238,800		
什器・備品		800,000		
7. 国会請願上納金	1,300,000			
8. 一般会計へ繰り入れ	3,450,674			
合計		9,229,474		
	次期繰越	6,486,577		

脚注 1998年度全腎協およびJPCの国会請願署名・募金運動が行われる場合はそれに必要な経費は特別会計から支出し、納入された募金については、特別会計の収入とさせていただきます。

一九九八年度スローガン(案)

- 1、腎臓病の研究、予防、治療から社会復帰にいたる腎臓病総合対策の確立を！
- 2、安心して透析治療が受けられる医療費公費負担制度の充実を！
- 3、要介護透析患者のために介護サービスの確立を！
- 4、地震などの災害時における緊急透析治療体制の早期確立を！
- 5、都立病院で成人の腎移植を！
- 6、慢性腎炎患者の医療費公費負担を！
- 7、国立病院及び都立病院での人工腎臓の増設と、夜間透析の実施を！
- 8、腎移植推進のために意思表示カードの普及を！
- 9、働ける腎臓病患者に社会復帰の道を！
- 10、区市町村での医療・福祉と災害対策の充実を！
- 11、活動内容を充実し、すべての腎疾患患者の結集を！

総会宣言(案)

政府は少子化、高齢化社会の急速な到来と財源不足を理由に昨年4月1日より消費税の増税、9月1日より医療保険制度および老人保健法の改悪を行い、「受益者負担」が次々に実施されました。さらに政府は、赤字国債を解消すべく昨年秋の臨時国会で、社会保障の大幅な削減を盛り込んだ財政構造改革法を成立させました。その中身は更なる医療保険法の改悪、年金制度の改悪、診療報酬改定にともなう自己負担の増加など私たちの「命と暮らし」に大きく関わることばかりです。

東京都においても、弱者の懐をも直撃するなりふりかまわぬ財政健全化計画案を作成、その中には心身障害者医療費の助成、老人医療費の助成、シルバーパスの交付などの大幅後退が含まれていました。特に、心身障害者医療費の助成は、私たち常時医療を必要とする者には、「命の綱」とも言うべき重要な施策です。何としても現在の制度を維持してほしい、との願いから、一丸となって見直し反対運動に取り組みました。署名活動では60,000人以上の反対署名を集めるなど、会員も必死の運動を展開しました。こうした運動が知事にも届き、1月22日には知事の決断で、心身障害者(児)医療費助成の現状維持を勝ち取ることができました。このことにより、いかに患者運動が大切か会員全員が身を持って実感しました。

東腎協は全腎協とともに、腎臓病の研究・予防・治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策の確立を柱に運動を進めています。しかし、その根本の「命と暮らし」が守られなければ前進はありません。私たちをめぐる環境は決して明るい状況ではありません。川野裁判に見られるように、透析患者は医療費がかかるからと解雇されたり、長引く不況の中で就職を希望する人が、職に就けない状況も発生しています。

私たちは、東腎協にすべての腎臓病患者を結集し、私たちの現状を国民に訴え、さらに理解を深めていただき、そして行政に働き掛けていきます。ここに、わたしが安心して暮らせる社会を築くことを目指し、活動を強めていくことを宣言します。

1998年4月26日

東京都腎臓病患者連絡協議会第26回総会

1998 年度役員候補者名簿

No.	役職名	氏名	患者会名	備考
1	会長	糸賀 久夫	松和患者会西新宿支部	
2	副会長	一ノ清明	東高円寺フェニックス会	
3	副会長	北爪 勇	湯島腎友会	
4	副会長	小泉 佐内	杏林腎友会	
5	副会長	高橋 勇二郎	田端駅前クリニック	
6	副会長	堀 和正	上野しのばず会	
7	副会長	柳 光夫	サポテン会	
8	事務局長	森 義昭	人工腎臓虎の門・高津会	
9	事務局次長	木村 妙子	上野しのばず会	
10	会 計	井上 寧枝	吉祥寺クリニック腎友会	
11	常任幹事	浅岡 正義	保谷腎友会	
12	常任幹事	阿部 和顕	あけぼの友の会	
13	常任幹事	生井 克子	阿佐ヶ谷すずき診療所	新
14	常任幹事	池田 たか子	嬉泉病院ニーレ友の会	
15	常任幹事	小川 嗣雄	立川北口駅前腎友会	
16	常任幹事	小田原 庸吉	吉祥寺クリニック腎友会	
17	常任幹事	小野 協子	東海病院ひまわり会	新
18	常任幹事	金子 智	松和患者会目白支部	
19	常任幹事	工藤 孝一	月島サマリア腎友会	
20	常任幹事	久保 正業	松和患者会西新宿支部	
21	常任幹事	黒田 展夫	大和病院透析友の会	
22	常任幹事	佐々木利喜栄	森山病院友の会	
23	常任幹事	清水 功一	調布東山クリニック腎友会	
24	常任幹事	下島 正資	大塚台腎友会	
25	常任幹事	須藤 正夫	大山腎友会	新
26	常任幹事	田中 助成	聖路加ニーレ会	新
27	常任幹事	東野 榮夫	あけぼの友の会	
28	常任幹事	納島 慶吉	新小岩クリニック友の会	
29	常任幹事	原 三代吉	腎研友の会	
30	常任幹事	藤原 実	嬉泉病院ニーレ友の会	新
31	常任幹事	森田 廣明	森山病院友の会	
32	常任幹事	山田 秀行	今尾医院腎友会	
33	常任幹事	渡辺 忠志	人工腎臓虎の門・高津会	新
1	幹 事	矢田 暉子	愛和腎友会	
2	幹 事	三輪 好子	青山会	
3	幹 事	溝田 勇夫	あけぼのクリニック友の会	

No.	役職名	氏名	患者会名	備考
4	幹事	尾沼 敬三	あけぼの友の会	
5	幹事	井上 裕一	阿佐ヶ谷すずき腎友会	
6	幹事	中野 幸次郎	小豆沢病院透析友の会	
7	幹事	鈴木 一雄	飯田橋クリニック腎友会	
8	幹事	時 左千夫	和泉クリニック腎友会	
9	幹事	篠原 孝昭	板橋駅前板友会	
10	幹事	中山 正作	稲城市立病院腎友会	
11	幹事	大久保 明雄	今尾医院腎友会	
12	幹事	杉浦 健祐	入谷クリニック腎友会	
13	幹事	田口 一郎	岩本町腎クリニック友の会	
14	幹事	吉岡 ひろみ	上野しのばず会	
15	幹事	長谷川 悟	大田病院腎患者会	
16	幹事	中村 武一	大塚台腎友会	
17	幹事	太田 慶彦	大橋クリニック友の会	
18	幹事	中野 秀雄	大山腎友会	
19	幹事	外山 泰弘	織本病院腎友会	
20	幹事	野々垣 良一	小笠原クリニック友の会	
21	幹事	竹内 正男	河辺腎友会	
22	幹事	新巻 好美	菊川橋クリニック腎友会	
23	幹事	岩沢 靖子	嬉泉病院二一レ友の会	
24	幹事	吉田 悦男	北多摩病院腎友会	
25	幹事	富田 安太郎	北病院腎友会	
26	幹事	林 俊雄	吉祥寺クリニック腎友会	
27	幹事	佐藤	貴友会王子病院腎友会	
28	幹事	長坂 希望	境南クリニック患者会	
29	幹事	伊藤 保雄	杏林腎友会	
30	幹事	三井 健	くにたち桜会	
31	幹事	中脇 賢蔵	薫風園腎友会	
32	幹事	大伴 順子	江東橋腎友会	
33	幹事	山本 もと子	小金井太陽病院サンフラワー	
34	幹事	澤登 昭子	国分寺こやま腎友会	
35	幹事		国分寺南口クリニック親光会	
36	幹事	中村 治兵衛	サポテン会	
37	幹事	川田 友吉	慈秀病院腎友会	
38	幹事	中村 敏邦	十条腎和会	
39	幹事	田中 克人	松和患者会西新宿支部	
40	幹事	北山 芳夫	松和患者会目白支部	
41	幹事	酒井 鶴雄	昭和大学百合の会	
42	幹事	関口 礼子	腎研友の会	
43	幹事	安部 克明	新小岩クリニック友の会	

No.	役職名	氏名	患者会名	備考
44	幹事	高崎 豊彦	人工腎臓虎の門・高津会	
45	幹事	松本 栄次	新宿水明クリニック腎友会	
46	幹事	加藤 明	新松山病院友の会	
47	幹事	油井 収	すずらん腎友会	
48	幹事	林田 洋子	聖蹟さくら会	
49	幹事		聖路加ニレ会	
50	幹事	黒木 顕	総愛篠崎クリニック患者会	
51	幹事	古木 直之	高中腎友会	
52	幹事	永田 貴則	高松病院患者会	
53	幹事	瀬戸谷 秀明	竹口病院腎友会	
54	幹事	中村 文子	立川北口駅前腎友会	
55	幹事	奥野 いく代	立川相互腎クリニック希望会	
56	幹事	宮崎 豊一	立花クリニック友の会	
57	幹事	根本 富雄	昭島腎クリニックひまわり会	
58	幹事	渡邊 靖	調布東山クリニック腎友会	
59	幹事	坂野 一寿	調布病院腎友会	
60	幹事		月島サマリア腎友会	
61	幹事	猪狩 奈美枝	帝京大学病院腎友会	
62	幹事	岩崎 登	天神橋クリニック腎友会	
63	幹事	渡辺 精二	東海病院ひまわり会	
64	幹事	会沢 常謙	東京共済病院腎友会	
65	幹事	菅原 律子	東京厚生年金病院腎友会	
66	幹事	伊藤 正信	東和病院腎友会	
67	幹事	武藤 富美子	長久保クリニック腎友会	
68	幹事	加藤 幸子	中野クリニック腎友会	
69	幹事		長原三和クリニック腎友会	
70	幹事	井沢 良雄	中目黒クリニック腎友会	
71	幹事	竹川 和明	西新井病院腎友の会	
72	幹事	松中 英徳	西池袋黎明会	
73	幹事	成田 美恵子	日伸ビルクリニック腎友会	
74	幹事	野口 美津枝	羽村相互診療所たんぼの会	
75	幹事	丸山 昇	東神田クリニック腎友会	
76	幹事	吉田 喜代子	東高円寺フェニックス会	
77	幹事	戸嶋 勝雄	聖橋クリニック腎友会	
78	幹事	村上 ひろ	府中けやき会	
79	幹事	桜田 純一郎	福生病院こでまり会	
80	幹事	山崎 浩一	豊生会	
81	幹事	市川 邦雄	望星田無友の会	
82	幹事	長尾 和正	保谷腎友会	
83	幹事	宮本 里子	牧田菊の会	

No.	役職名	氏名	患者会名	備考
84	幹事	中根 亨	町谷原クリニック腎友会	
85	幹事		松村クリニックすみれ会	
86	幹事	小池 栄子	瑞江腎クリニック腎友会	
87	幹事	佐藤 経廣	三鷹北口病院腎友会	
88	幹事	大栗 攻	南大沢パオレ腎友会	
89	幹事	矢口 裕一	南千住病院河童会	
90	幹事	一ノ宮 望	南多摩病院のぼら会	
91	幹事	立石 寿意	明神町(桑の実会)	
92	幹事	青木 勝	武蔵境駅前クリニック腎友会	
93	幹事	木村 義治	村上医院ひまわり会	
94	幹事	宗像 聡之	森山病院友の会	
95	幹事	中島 良明	谷中三和クリニック腎友会	
96	幹事	中川 喜太治	柳原健腎会	
97	幹事	関 純也	大和病院透析友の会	
98	幹事	渡辺 敏朗	湯島腎友会	
99	幹事	小野田 時子	代々木病院腎友会	
100	幹事	竹山 芳之	両国駅前クリニック腎友会	
1	会計監査	鈴木 勇	高中腎友会	
2	会計監査	篠原 栄一	中野クリニック腎友会	
1	相談役	泉山 知威	すずらん腎友会	

一九九七年度主な活動記録

97年3月

- 1 関東ブロック災害対策推進委員会出席(4人)
- 6 会員拡大パンフレットの件で衛生局訪問
- 「透析患者及びその治療施設に関する現況調査結果」受領。「災害時の透析医療の確保について(案)」の検討を依頼される
- 8 第26回常任幹事会開催(24人)
- 11 「ぜんじんきょう」No.100並びに幹事会報告発送作業
- 14 東野協総会案内に衛生局、福祉局、労働経済局訪問(3人)
- 15 全野協総会(3人)
- 17 25周年入会のしおり(パンフレット)校正
- 18 「東野協」No.118の医療情報特集で高坂さん取材(3人)
- 19 「ぜんじんきょう」No.160郵便局分発送
- 22 教監監査(4人)
- 23 教宣委員会開催(4人)
- 26 ノーマネットPC入荷
- 27 全野協国会請願行動(15人)
- 30 東和病院腎友会総会出席
- 編集委員会開催(4人)
- 杏林大学講演「腎移植と豊かな透析生活を目指して」出席(2人)
- 97年4月
- 3 臓器移植法案の早期成立を目指す衆院議員要請行動(4人)
- 5 ノーマネットパソコンセ
- 6 第25回記念東野協総会開催(参加者:150人)
- 10 総会後挨拶に東京都衛生局、福祉局、労働経済局訪問(4人)
- 12 徳野協第19回総会へメッセージFAX
- 13 全野協理事會(3人)
- 14 第27回常任幹事会開催(19人)
- 15 教宣、災害対策合同委員会(6人)
- 17 川野訴訟控訴審第1回公判東京高裁傍聴・報告会参加(6人)
- 18 岩手県腎臓病の会第19回総会へメッセージFAX
- 19 総会欠席患者会へ発送
- 20 未加入病院訪問(日野クリニック)
- 21 ノーマネット東野協コーナー案内文登録
- 22 第3回板橋区腎友会総会開催(4人、あけぼの友の会第21回総会出席(2人)、松和患者会総会、川崎地域腎臓病患者連絡協議会設立総会出席)
- 23 JPC国会請願行動出席(2人)、京野協第27回総会、秋野協第25回総会、鹿野協25周年記念総会、岡山県野協第23回総会へメッセージ発送
- 24 東京都障害者団体連絡協議会出席
- 25 神奈川県腎友会第22回総会へ祝電発信、大分県野協第19回総会へメッセージ発送
- 26 編集委員会開催(8人)
- 27 「東野協」No.118発送・郵便局持ち込み分(2人)
- 97年5月
- 3 未加入病院訪問(山川クリニック)
- 4 会員拡大・交流委員会開催(6人)
- 6 鳥取県腎友会第24回、広島県腎友会第28回、熊野協第26回、香野友第24回、愛野協第28回各総会へメッセージ発送
- 7 都・特殊疾病対策で腎臓病を考える都民の集い打合せ(2人)
- 9 「ぜんじんきょう」No.161発送(2人)
- 9 千野協第27回総会へ祝電「腎臓病を考える都民の集い」で増先生死講演依頼状作成、打合せ(2人)
- 11 会員拡大で病院訪問(立川相互病院、立川共済病院)
- 11 第28回常任幹事会開催(25人)
- 15 区中央部役員会、区東部役員会、区北部役員会、福井県腎友会、富山県腎友会、高根県野協(社)滋賀県腎臓病患者福祉協会の各総会へメッセージ発送
- 15 臓器移植法案参議院要請

- (2人)
- 16 会計記帳、佐賀県腎協第22回総会へメッセージ発送
- 17 全腎協総会出席(5人) 交流会出席(16人)
- 18 全腎協大会出席(17人) 「腎臓病を考える都民の集い」衛生局と打合せ
- 21 「腎臓病を考える都民の集い」衛生局と打合せ
- 22 臓器移植法案参議院要請(2人)
- 「腎臓病を考える都民の集い」打合せ(2人)
- 多摩部役員会(7人)
- 「臓器の移植に関する特別委員会」水島裕参議院議員へ早期成立願い文FAX
- 23 茨腎協第26回定例総会へ祝電発信
- 25 江戸川腎友会つき会第5回総会出席(3人)
- 26 山形県腎友会第23回、岐阜協第27回、高腎会第22回、静岡県腎友会第19回の各総会へメッセージ発送
- 未加入病院訪問(中島クリニック)
- 移植法案・参院要請行動
- 7、8 全腎協理事会出现
- 参加(6人)
- 未加入病院訪問(東京慈恵医大第三病院、町谷原病院)(2人)
- 30 未加入病院訪問(駒込駅前クリニック)
- 31 未加入病院訪問(小池内科)(2人)
- 97年6月
- 2 JPC緊急集会、デモ行進、国会請願行動(6人)
- 3 未加入病院訪問(貴友会王子病院)(2人)
- 4 未加入病院訪問(池上総合病院、沢井病院、東急病院)
- 5 東京都社会福祉機器総合センター開所出席
- 衛生局特殊疾病対策課・荒木係長、佐藤主事「考える集い」ポスター持参で来局
- 6 東京都障害者団体連絡協議会出席
- 山梨県腎友会第26回総会、福島県腎協第28回総会へ祝電・メッセージ発送
- 7 未加入病院訪問(高田馬場診療所)(2人)
- 8 第210回常任幹事会開催(24人)
- 9 養育院へ平成10年度予算要望書提出(2人)
- 11 臓器移植法案参議院要請行動(3人)
- 12 会員拡大で病院訪問(西窪病院、三鷹北口病院) 奈腎協第24回総会へメッセージ発送
- 13 未加入病院訪問(佐藤クリニック、公立阿伎留病院)(2人)
- (東京警察病院)
- 14 栃腎友会第23回総会へメッセージ発送
- 未加入病院訪問(松井病院)
- 15 第2回関東ブロック災害対策推進委員会(3人)
- 東腎協25周年記念「災害時における透析医療の確保について」講演会
- 第11回「腎臓病を考える都民の集い」(14人)
- 未加入病院訪問(東邦大 学付属大森病院)
- 16 未加入病院訪問(黒田病院)
- 21 教宣委員会(6人)、災害対策検討委員会(4人)
- 未加入病院訪問(西高田馬場クリニック、大久保渡辺クリニック)(2人)
- 22 全難連総会出席(7人) 東腎協結成25周年記念パーティー開催(115人)
- 未加入病院訪問(八木内科)
- 25 未加入病院訪問(加藤内科、総愛診療所、新葛西病院)(2人)
- 26 東京都、97年度予算要請行動(14人)
- 29 区南部患者会交流会・お台場ベイエリアアウォーキング開催(30人)
- 97年7月
- 2 未加入病院訪問(江東病院、土屋胃腸科腎センター)(2人)
- 4 未加入病院訪問(大森赤十字病院、中島病院、千葉医院、牧田総合病院)
- (桜井病院、秀島病院、美好腎クリニック)
- 5 東難連運営委員会出席(2人)
- 未加入病院訪問(下落合クリニック、須田内科クリニック、須田クリニック)(2人)
- 5、6 第41回関東ブロック会議出席 in 河口湖(7人)
- 8 東難連平成10年度東京都予算要請
- 9 「ぜんじんきょう」No.102 発送(2人)
- 11 「東腎協」No.119 発送作業(2人)
- 12 未加入病院訪問(新宿2丁目クリニック)(2人)
- 12、13 全腎協相談員研修会(大阪)(2人)
- 13 災害対策委員会(5人) 第210回常任幹事会開催(22人)
- 14 中央部交流会役員会(4人)、編集委員会(5人)
- 14 未加入病院訪問(都立府中病院)
- 15 腎キャンベーン都・衛生局で打ち合せ(4人)
- 18 未加入病院訪問(井ノ頭

- クリニック、武蔵野赤十字病院) (2人) (京浜病院、東京労災病院)
- 19 未加入病院訪問 (都立大久保病院、ヨリコ戸山クリニック、山田クリニック) (2人)
- 20 区中央部交流会文京シビックセンターで開催 (26人)
- 24 川野裁判ピラまき (2人)
- 26 教宣委員会開催 (7人)
- 27 多摩部交流会開催 (30人)
- 31 未加入病院訪問 (社会保険中央病院) (2人)
- 97年8月
- 1 未加入病院訪問 (調庭医院)
- 6 名刺広告募集案内状各施設宛て発送
- 8 7月分会計報告作成
- 9 三役会議 (6人、障害者福祉会館調整会議出席)
- 10 区東部交流会 (32人)
- 12 全腎協座談会出席
- 10 腎不全対策推進功労者略歴及び功績調書を特殊疾
- 病対策課宛て FAX
- 14 関東ブロック災害対策推進委員会提出用透析施設名簿作成
- 16 未加入病院訪問 (西日暮里クリニック、野中医院)
- 17 未加入病院訪問 (日本医科大腎クリニック)
- 19 区北部役員会 (5人)
- 20 関東ブロック災害対策打合せ (2人)
- 20 未加入病院訪問 (立花クリニック、西大島クリニック) (2人)
- 23 パソコンLAN構築
- 24 未加入病院訪問 (日本大学病院)
- 24 川野さんの復職をめざす会結成総会出席 (9人)
- 24 編集研修会 (6人)
- 24 江戸川さつき会講演会 (4人)
- 25 川野公判傍聴及びピラまき (5人)
- 27 JPC要請書発送 (2人)
- 27 未加入病院訪問 (渋谷パーククリニック、青山病院、並木橋クリニック)
- 30 区北部役員会、関東プロ
- ック災害対策推進委員会
- 30 31 全国青年交流会 (2人)
- 97年9月
- 3 会員拡大で病院訪問 (代々木山下病院、クリニック千駄ヶ谷)
- 4 腎キャンベーンについて都と打合せ (3人)
- 6 堀副会長見舞い (2人)
- 6 未加入病院訪問 (滝山病院)
- 6 7 全腎協理事会 (4人)
- 7 第21回常任幹事会開催 (23人)
- 7 「障害者施策の継続・発展を求める会」出席
- 10 「ぜんじんきょう」No.163 発送
- 10 教宣委員会開催 (7人)
- 13 第39回幹事会開催 (90人)
- 14 「川野さんの復職をめざす会」入会案内発送
- 18 「財政健全化計画」の徹底審議を行い、障害者施策の継続・発展を求める請願行動参加 (2人)
- 19 会員拡大・交流委員会 (7人)
- 25 川野裁判PRピラまき行動 (7人)
- 30 「東腎協」No.120編集 (2人)
- 97年10月
- 1 「ぜんじんきょう」No.163 声の会報発送準備
- 3 「財政健全化計画」都議会請願文案作成
- 3 第22回常任幹事会 (20人)
- 5 川野裁判地元要請
- 7 青年部交流会打合せ (7人)
- 8 「江戸川区民まつり」腎キャンベーン (2人)
- 10 「ふるさと東京まつり」腎キャンベーン参加 (5人)
- 11 「ふるさと東京まつり」腎キャンベーン参加 (4人)
- 12 「ふるさと東京まつり」腎キャンベーン参加 (4人)
- 12 腎移植国民大会 (盛岡) 厚生大臣感謝状受賞 (2人)
- 14 「ぜんじんきょう」No.163 声の会報タビニング・発送、会員拡大資料作成
- 15 「緊急時透析患者手帳」発送 (2人)
- 16 銀座敷寄屋橋公園で、「意思表示カード」配布 (2人)
- 17 都議会民主党ヒアリング出席 (6人)
- 17 腎臓及び角膜移植推進キャンベーン新宿NSビルで開催 (11人)
- 18 未加入病院訪問 (新葛飾病院、白鳥診療所、東立病院、慈恵会医科大学青戸病院)
- 18 19 全腎協総会出席 (3人)
- 21 「東腎協」No.120あかつき印刷で賣了 (2人)
- 23 都議会共産党ヒアリング (7人)
- 24 都議会請願署名用紙発送
- 24 未加入病院訪問 (吉川内科小児科病院、山吉クリニック)
- 26 未加入病院訪問 (三井記念病院、半蔵門病院、同和病院) (2人)
- 26 区中央部大江戸下町情緒バス旅行実施 (33人)
- 26 多摩部日帰りバス旅行実施 (50人)

27 川野裁判傍聴、ピラ配り
(8人)

28 公明党ヒアリング出席及び
自民党、無所属クラブ、
生活者ネットワーク、社
会民主党へ要望書提出
(6人)

未加入病院訪問(青葉病院、
西城クリニック)(2人)

31 「東腎協」No120発作作業
(3人)

未加入病院訪問(道支坂
クリニック、日本赤十字
医療センター)(桜新町
クリニック)

97年11月

1 未加入病院訪問(敬友ク
リニック高輪(2人)

1 2 関東ブロック青年交
流会(6人)

2 「川野さん」世話人会
社民党へ患者の権利アン
ケート送送および編集委
員会案内作成

愛媛県腎協第25回総会へ
メッセージFAX
未加入病院訪問(電話工
作)、(東京女子医科大

20 心身障害者医療費助成等

学腎臓病総合医療センタ
ー、25周年記念パンフ
レット50部送付成功

7 未加入病院訪問(東邦大
学大橋病院、玉川病院)

8 事務所問題検討委員会
(12人)

9 未加入病院訪問(東京船
員保険病院)

11 「ぜんじんきょう」No164
発送

13 大阪腎臓病患者協議会第
23回総会へメッセージ発
送

国立さくら会会員故柳原
さんのご主人柳原茂行さ
ん来局。30万円寄贈

16 第23常任幹事会開催(17
人)

18 編集委員会開催(7人)

19 未加入病院訪問(駒沢腎
クリニック、橋本病院)

20 心身障害者医療費助成等

の見直し説明に三宅福祉
局障害福祉部長、山下計
画係長来局(4人)

22 教宣委員会(5人)

24 未加入病院訪問(白髭橋
病院)

25 JPC・全難連主催難病
対策懇談会出席

27 都議会請願署名三九、九
九九人分提出、田中都議
会議長、三宅障害福祉部
長面会(3人)

東海林特殊疾病対策課長
訪問・懇談(5人)

都議会請願署名協力の御
札に東京都庁職員労働組
合社会保険支部訪問(2
人)

JPC・全難連主催難病
対策見直しに関する要望
書提出

未加入病院訪問(日医大
付属腎クリニック・東大
医科研病院)

28 ノーマネット研修会(2
人)

未加入病院訪問(河北絶
院)

合病院付属診療所
「ぜんじんきょう声の会
報」ダビング(2人)

29 教宣委員会「とうじんき
ょうニュース」編集(3
人)

30 「東腎協」No121「新春座
談会」実施(7人)

97年12月
都議会請願署名提出
都議会請願署名追加分提
出(合計で約六〇、二〇
〇人分)東京都障害者団
体連絡協議会出席

1 都議会請願署名追加分提
出(合計で約六〇、二〇
〇人分)東京都障害者団
体連絡協議会出席

2 都議会請願署名追加分提
出(合計で約六〇、二〇
〇人分)東京都障害者団
体連絡協議会出席

3 今尾病院院長逝去にあた
り、弔電発信
未加入病院訪問(北千住
西口クリニック、豊生ク
リニック)

6 7 第42回関東ブロック
会議開催(他県30、全腎
協2、東腎協9、合計41
人)

9 東腎協ニュース作成・発
送(3人)

10 未加入病院訪問(敬仁病
院)

21 区南部蒲田温泉交流会
(23人)

12 衛生局特殊疾病対策課荒
木係長、来年度の「腎臓
病を考える都民の集い」
の実施について説明に
来局(5人)

13 関東ブロック災害対策推
進委員会(11人)

14 小笠原クリニック忘年会
第24回常任幹事会開催
(23人)

15 東難連肝臓病医療相談会
川野裁判第5回公判傍聴
(6人)

17 「都民の集い」報告集発
送(3人)

18 九茂教授と体験交流及び
医学学会総会・集いにつ
いて打合せ(3人)

19 JPC・全難連主催難病
対策の見直しに関する要
請行動

20 拡大三役会議(11人)

21 区南部蒲田温泉交流会
(23人)

22 教宣委員会(5人)

23 ノーマネット研修会(2
人)

24 未加入病院訪問(敬仁病
院)

22 川野さんを守る会で「連合」へ支援要請(3人) 仕事納め

98年1月

10 拡大三役会議(9人)
10、11 全腎協理事會(3人)
12 「ぜんじんきょう」№165 発送作業(3人)
会計記帳

13 「東腎協」№122校正あかつき印刷へ(2人)
都庁・都議会新年あいさつ廻り(4人)

14 活動報告案作成
東難連都庁新年あいさつ廻り、難病公費負担見直し要望書提出
未加入病院訪問(南田町クリニック、品川腎クリニック)

16 未加入病院訪問(南池袋診療所、同友会クリニック、中野江古田病院)
第25回常任幹事會開催(22人)

20 障害者福祉会館定期利用申込

23 三松就職結果報告作成
川野裁判ボスター、とうじんきょうニュース、全腎協医療、相談揭示用紙発送(2人)

未加入病院訪問(くろさかクリニック)

24、25 青年部スキー交流会
・軽井沢(久保他、13人)

25 区東部ブロック患者會交流会(26人)

27 「ケミック」阿部氏、ケミックホットバックの説
明に来局
未加入病院訪問(博慈會腎クリニック)

98年2月

6 未加入病院訪問(成増クリニック)

7 東海病院會員さんと話し合い

東難連障害者福祉会館調整會議出席

7、8 全腎協理事會(3人)
10 関東ブロック報告書作成・発送(3人)

12 「腎臟病を考える都民の集い」の打合せに東京医科歯科丸茂先生訪問(3人)

人

東京都心身障害者福祉センター第2回障害者震災対策検討委員會出席

15 第26回常任幹事會(22人) 議案集編集(2人)
18 「財政健全化計画」の審議で都議会傍聴

20 「腎臟病を考える都民の集い」の打合せに衛生局訪問(2人)

21 會費値上げ案作成、會員數、會費納入状況調査
教宣委員會開催(8人)
板橋腎友會アンケート印刷(4人)

22 東難連運営委員會
23 多摩部幹事會(22人)
東京都心身障害者福祉センター第3回障害者震災対策検討委員會出席

25 川野控訴審第6回公判、ピラ撒き(5人)

文書発言もできます

東腎協規約第六条で、總會に対して文書による発言も認められています。

なお、總會議案に対する意見のある方は、文書にして、四月二〇日(必着のこと)までに東腎協にお送り下さい。

〈送り先〉

〒171-0031 東京都豊島区目白2-1-28-2

紫山ビル3階

東腎協事務局

マル障見直し反対 都議会請願署名集計表

最終報告

No.	会コード	会名	会員数	署名数	No.	会コード	会名	会員数	署名数
1	001	愛和腎友会	74	846	64	054	東海病院ひまわり会	83	844
2	002	青山会	5	80	65	055	東京共済病院腎友会	10	60
3	003	あけぼの友の会	156		66	056	東京厚生年金病院腎友会	10	
4	004	あけぼのクリニック友の会	70	952	67	057	東和病院腎友会	86	1,021
5	105	阿佐ヶ谷腎友会	77	230	68	058	中島病院腎友会		
6	102	小豆沢病院透析友の会	33		69	059	中野クリニック腎友会	38	376
7	005	飯田橋クリニック腎友会	76	526	70	060	中目黒クリニック腎友会	37	207
8	006	和泉クリニック腎友会	13	10	71	061	長久保クリニック腎友会	45	740
9	007	板橋駅前板友会	65	452	72	062	長原三和クリニック腎友会	20	
10	008	福城市立病院腎友会	22	135	73	063	西新井病院腎友の会	125	1,330
11	009	今尾医院腎友会	41	370	74	064	西池袋黎明会	25	128
12	010	入谷クリニック腎友会	34	260	75	065	日伸ビルクリニック腎友会	16	100
13	013	岩本町腎クリニック友の会	20	177	76	066	羽村相互診療所たんぼほの会	45	476
14	011	上野しのばず会	55	860	77	067	東神田クリニック腎友会	91	390
15	012	大病院腎患者会	52	481	78	068	東高円寺フェニックス会	76	850
16	095	大塚台腎友会	40	201	79	069	聖橋クリニック腎友会	101	963
17	013	大橋クリニック友の会	27	275	80	070	福生病院こでまり会	43	571
18	014	大山腎友会	70	487	81	071	府中けやき会	75	509
19	015	小笠原クリニック友の会	93		82	072	豊生会	70	961
20	016	鎌木病院腎友会	55	406	83	073	望星田無友の会	119	779
21	017	河辺腎友会	36	275	84	074	保谷腎友会	45	670
22	018	菊川橋クリニック腎友会	66	448	85	104	牧田朝の会	19	180
23	019	鎌泉病院ニール友の会	257	2,690	86	075	町谷原クリニック腎友会	29	177
24	020	北多摩病院腎友会	21	243	87	076	松村クリニックすみれ会	27	430
25	021	北病院腎友会	62	307	88	077	瑞江腎クリニック腎友会	42	456
26	022	吉祥寺クリニック腎友会	115	1,308	89	078	三鷹北口病院腎友会	80	852
27	023	境南クリニック患者会	16	79	90	079	南大沢ハピレ腎友会	46	390
28	024	南林腎友会	29	514	91	080	南千住病院河童会	14	52
29	029	貴友会王子病院腎友会	6	101	92	081	南多摩病院のぼろ会	108	1,265
30	025	くにたち桜会	50	690	93	084	明神町(桑の実)会	14	617
31	026	薫風園腎友会	4		94	085	武蔵境駅前クリニック腎友会	65	535
32	027	京業病院腎友会	15		95	086	村上医院ひまわり会	51	371
33	028	江東橋腎友会	90	469	96	087	森山病院友の会	102	2,000
34	097	小井太陽病院サンフラワー	26	372	97	089	谷中三和クリニック腎友会	18	
35	029	国分寺こやま腎友会	74	763	98	093	柳原健腎会	87	570
36	030	国分寺南口クリニック観光会	62	297	99	088	大和病院透析友の会	95	292
37	031	サポレン会	55	626	100	090	湯島腎友会	19	120
38	032	昭和大学病院百合の会	4		101	091	代々木病院腎友会	128	1,149
39	033	松和患者会西新宿支部	139	1,547	102	092	両国駅前クリニック腎友会		
40	034	松和患者会目白支部	79	611			患者会合計	5,959	53,848
41	035	新小岩クリニック友の会	188	2,297	1	901	青梅市立病院	19	256
42	037	新宿水明クリニック腎友会	20	235	2	903	さがみ循環器病院	4	10
43	038	新松山病院友の会	82	633	3	904	三軒茶屋病院	54	680
44	039	慈秀病院腎友会	6	100	4	905	さくら会病院(白倉G)	10	
45	096	十条腎研会	45	615	5	906	すみれ腎友会	3	
46	040	腎研友の会	74	1,075	6	907	東葛クリニック小岩	3	60
47	041	人工腎臓虎の門・高津会	199	1,751	7	908	西クリニック(武田G)	42	585
48	042	すずらん腎友会	100	603	8	909	堀之内病院	6	100
49	043	聖蹟さくら会	80	974	9	910	東村山診療所	2	40
50	011	聖路加ニール会	60	413	10	913	福生加藤クリニック	4	95
51	100	総愛種崎クリニック患者会	20	189	11	914	高尾駅前クリニック	3	60
52	044	高中腎友会	26	250	12	915	東京女子医大田端グループ	7	10
53	045	高松病院患者会	47	225	13	916	日野クリニック	12	40
54	046	竹口病院腎友会	64	818	14	917	さくら会病院(阿部G)	8	179
55	098	立川北口駅前腎友会	25	330	15	918	八木内科グループ	10	210
56	047	立川相互腎クリニック希望会	127	1,031	16	919	豊生勝和クリニック	3	
57	048	立花クリニック友の会	83	868			グループ合計	190	2,325
58	049	昭島腎クリニックひまわり会	96	714			都人会員合計	511	2,653
59	050	廣布病院腎友会	58	770			都庁福祉社会保険支部		1,775
60	051	調布東山クリニック腎友会	83	748			日本腎友会労働組合		132
61	052	月島サマリア腎友会		20			不明		20
62	053	帝京大学病院腎友会	7	120					
63	094	天神橋クリニック腎友会	81	550			総合計	6,660	60,753

1997年度全腎協・JPC国会請願署名・募金集計

No.	会名	全腎協	JPC	募金	No.	会名	全腎協	JPC	募金
1	聖和腎友会	600	620	37,020	64	東海病院ひまわり会	445	425	27,000
2	青山会	67	66	4,000	65	東京共済病院腎友会	40	40	3,000
3	あけぼの友の会	1,016	1,004	34,740	66	東京厚生年金病院腎友会			
4	あけぼのクリニック友の会	707	717	54,000	67	中島病院腎友会	813	833	42,660
5	阿佐ヶ谷すすき腎友会	428	428	45,360	68	中島病院腎友会			
6	小豆沢病院透析友の会	101	99	10,000	69	中野クリニック腎友会	241	233	19,000
7	飯田橋クリニック腎友会	301	297	15,000	70	中目黒クリニック腎友会			
8	和泉クリニック腎友会				71	長久保クリニック腎友会	480	479	23,880
9	橋樫駅前坂友会	321	324	20,000	72	長原三和クリニック腎友会			
10	稲城市立病院腎友会	161	162	4,800	73	西新井病院腎友の会	500	490	60,000
11	今尾医療院腎友会	365	365	9,600	74	西池袋黎明会	109	109	15,000
12	入谷クリニック腎友会	225	235	20,400	75	日伸ビルクリニック腎友会	79	89	59,400
13	岩本町腎クリニック友の会				76	羽村相互診療所たんぼの会	417	432	37,380
14	上野しのばず会	906	914	49,800	77	東神田クリニック腎友会	315	304	30,600
15	大田病院腎患者会	379	390	22,000	78	東高円寺クリニック腎友会	796	784	62,000
16	大塚台腎友会	206	195	24,720	79	聖橋クリニック腎友会	410	391	55,452
17	大橋クリニック友の会	177	188	2,400	80	福生病院こどもり会	385	380	28,800
18	大山腎友会	195	195	8,000	81	府中けやき会	271	271	30,000
19	小笠原クリニック友の会	894	903	87,300	82	豊生会	877	893	60,000
20	織本病院腎友会	464	464	35,520	83	望星田無友の会	768	766	39,840
21	河辺腎友会	171	170	20,000	84	保谷腎友会	461	461	28,860
22	菊川橋クリニック腎友会	338	360	50,000	85	牧田菊の会	45	55	21,400
23	鎌倉病院ニール友の会	1,865	1,842	150,000	86	町谷原クリニック腎友会	163	165	19,300
24	北多摩病院腎友会	280	270	20,000	87	松村クリニックすみれ会	380	379	34,940
25	北病院腎友会	262	254	10,000	88	瑞江クリニック腎友会	347	347	29,000
26	吉祥寺クリニック腎友会	1,168	1,183	105,720	89	三鷹北口病院腎友会	715	715	67,000
27	境南クリニック患者会	110	110	4,500	90	南大沢パオレ腎友会	254	254	20,000
28	杏林腎友会	349	329	12,000	91	南千住病院河童会	47	49	5,800
29	貴友会王子病院腎友会	69	79	10,600	92	南多摩病院のぼら会	1,073	1,071	84,500
30	くらたま協会	385	399	29,520	93	明神町(桑の実会)	276	277	24,000

31	薫風園腎友会	53	51	10,000	94	武蔵境駅前クリニツク腎友会	215	215	37,000
32	京葉病院腎友会				95	村上医院ひまわり会	240	219	35,040
33	江東橋腎友会				96	森山病院友の会	2,060	2,050	155,820
34	小金井太陽病院サンクラブ	181	181	21,000	97	谷中三和クリニツク腎友会	387	408	30,060
35	国分寺こやま腎友会	1,005	920	88,000	98	柳原健腎会	966	940	80,000
36	国分寺口クリニツク観光会	184	186	22,000	99	大和病院透析友の会	114	114	15,000
37	サボテン会	441	429	41,750	100	湯島腎友会	998	989	59,400
38	昭和大学病院百合の会	1,419	1,399	81,660	101	代々木病院腎友会			
39	松和患者会西新宿支部	276	276	40,600	102	両国駅前クリニツク腎友会	43,681	43,470	3,505,222
40	松和患者会目白支部	1,436	1,425	112,710		患者会合計	247	255	25,400
41	新小岩クリニツク友の会	238	219	24,000	1	青梅市立病院	60	60	3,000
42	新宿水明クリニツク腎友会	415	427	37,200	2	さがみ循環器病院	498	509	68,210
43	新松山病院友の会	27	27	14,000	3	三軒茶屋病院	69	69	6,000
44	慈秀病院腎友会	577	567	9,600	4	さくら会病院(白倉G)	40	40	7,400
45	十条腎友会	1,210	1,200	51,960	5	すみれ腎友会	20	20	3,200
46	腎研友の会	1,763	1,753	174,300	6	東葛クリニツク小岩	190	203	12,460
47	人工腎臓虎の門・高津会	380	378	40,000	7	西クリニツク(武田G)	60	60	3,000
48	すずらん腎友会	694	732	42,000	8	壺之内病院	498	509	68,210
49	聖蹟さくら会	111	111	11,500	9	東村山診療所	69	69	6,000
50	聖路加ニーレ会	182	183	10,800	10	福生加藤クリニツク	40	40	7,400
51	総愛護滝クリニツク患者会				11	高尾駅前クリニツク	20	20	3,200
52	高中腎友会	176	176	11,280	12	東京女子医大田端グループ	190	203	12,460
53	高松病院患者会	729	717	64,110	13	日野クリニツク	80	80	3,000
54	竹口病院腎友会	171	192	26,000	14	さくら会病院(阿部G)	28	34	4,500
55	立川北口駅前腎友会	841	789	64,620	15	八木内科グループ	120	120	
56	立花クリニツク友の会	599	592	78,900	16	豊生腫瘍クリニツク			
57	立花クリニツク友の会	509	498	35,150		グループ合計	1,668	1,694	153,770
58	昭島腎クリニツクひまわり会	923	927	24,500		個人会員合計	1,597	1,510	297,300
59	調布病院腎友会	549	538	73,250		都畿労西税支部渋谷分会	132		21,700
60	調布東山クリニツク腎友会								
61	月島サマリヤ腎友会	110	110	11,000					
62	帝京大学病院腎友会	285	278	45,200					
63	天神橋クリニツク腎友会					総合計	47,078	46,674	3,977,992

腎臓病を考える都民の集い

1998年5月12日(火) 午後2時～4時
東京フォーラム



医療・生活・
栄養相談
コーナーも
あるよ!

たくさんの
会員の参加を
お待ちしております!

今回は
腎臓学会と
共催で
平日開催!

東京
フォーラムは
有楽町都庁跡
ですよ

東京
フォーラムで
会いましょう
お友達と
一緒に

—腎臓の大切さをご理解いただくために—

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会 〒171-0031東京都豊島区目白2-38-2 紫山会ビル
TEL.03-3985-7990 FAX03-3985-7998